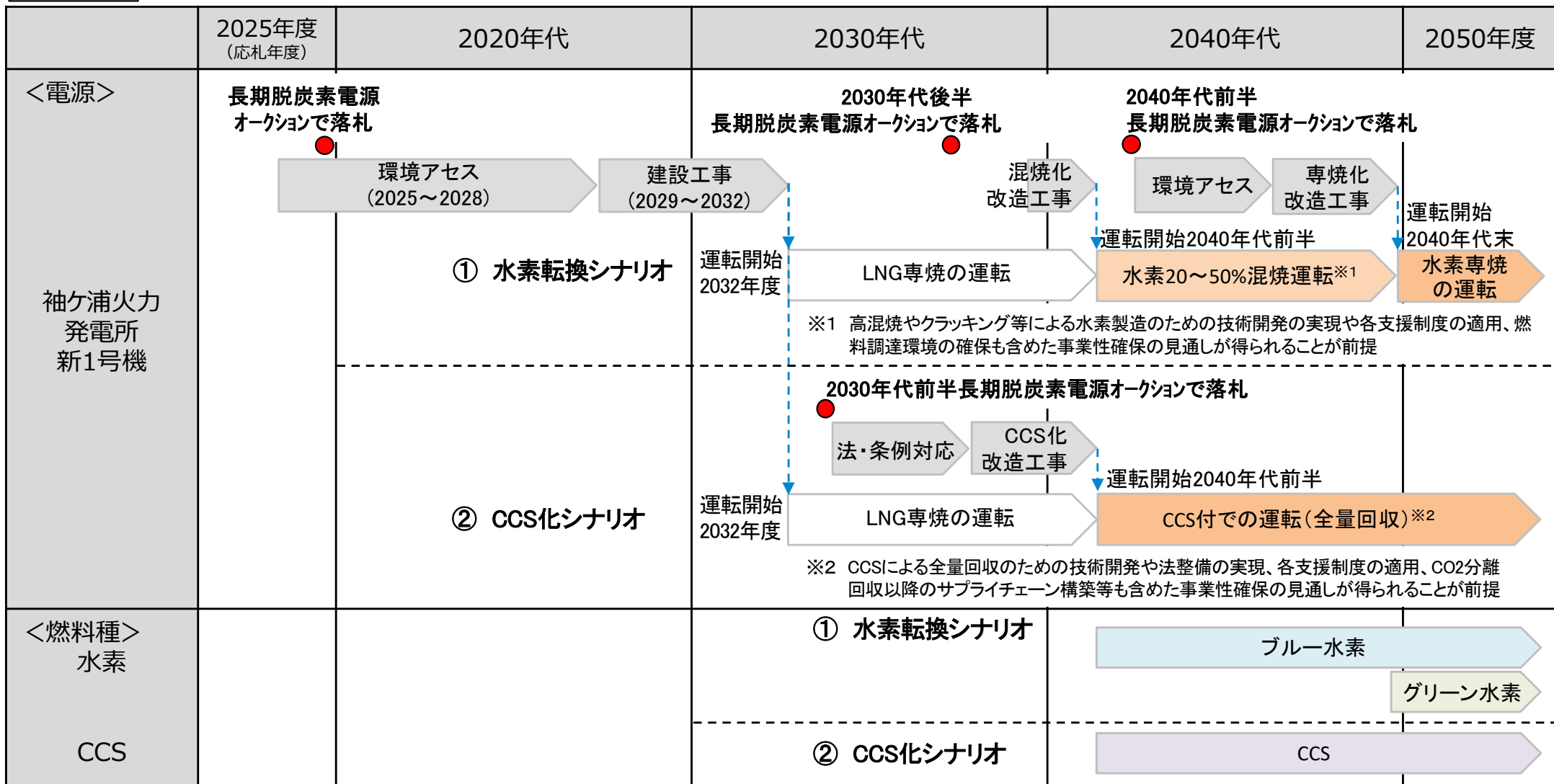




<前提条件>

- ✓ 長期脱炭素電源オークション等の支援制度の適用を通じた、適切な投資回収及び事業性の確保
- ✓ 水素混焼・専焼、CCS化のための技術開発や法整備の実現、実証試験の成功、並びに金融機関から改造工事に必要な資金調達ができること
- ✓ 水素20～50%混焼またはCCS付の運転開始時期は、支援制度適用を踏まえた技術開発や事業の進捗等を考慮して決定
- ✓ 2040年代のブルー／グリーン水素の利用は、経済性や炭素価格等を踏まえて総合的に判断
- ✓ CCS導入は、国内外のCO2貯留地にて事業期間中十分貯留できる見通しがあり、クロスチェーンリスクに対応できうる当事者間の合意形成ができること
- ✓ CCS稼働開始時点の最新技術で全量回収を目指す、実現できない場合はCCS導入のフェーズを分け、非化石証書等を購入し補填する